

知事と区市町村長との意見交換

(大島町、利島村、新島村、神津島村)

令和4年10月14日(金)
16時00分～16時45分

○**行政部長** それでは、本日の意見交換は大島町、利島村、新島村、神津島村を予定しております。

まず大島町から始めまして、以降三村につきましては、順次参加をしていただきます。

三辻町長、こちらの映像、音声は届いておりますでしょうか。御発言をお願いします。

○**大島町長** よく聞こえています。よろしくお願いします。

○**行政部長** はい、こちらの音声も届いております。

それでは始めさせていただきます。はじめに、知事から一言御挨拶をお願いします。

○**知事** 町長、御無沙汰でございます。というか、こうやってもう今、オンラインでというのは普通になりましたね。

2年、3年前には考えられなかったようなことが、あっという間に日常になるんだなど改めて思っております。今日よろしくお願いします。

伊豆大島ジオパークということで、伺ったこともございますが、これからも宝の島として、持続的な発展のため、都と大島町、連携していきたいと思っております。

限られた時間ですけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○**行政部長** それでは三辻町長、御発言ください。

○**大島町長** それでは改めましてこんにちは。大島町長の三辻でございます。

本日は、小池知事におかれましては、お忙しいところ、このような意見交換会の機会を設けていただき、厚く御礼申し上げます。

大島町において、コロナ陽性者が発生した際も、東京都の素早い対応、またコロナ禍における東京都独自の観光促進事業、「もっとTokyo」など、並びに財政支援事業など、多岐にわたり様々な支援を講じていただき、改めて感謝申し上げます。

それでは、第1のテーマであります再生可能エネルギーを活用したまちづくりとして、令和2年度に、国の浮体式洋上風力発電による地域の脱炭素化ビジネス促進事業委託業務に採択され、令和5年度までに海象・風況観測、解析調査、設置海域の検討、発電設備候補の調査等を実施する予定で進めているところです。

地産地消型の浮体式洋上風力発電を導入することは、国や東京都が積極的に推進している脱炭素化への取組として発信する意義は大きく、発電部門における低炭素化に寄与する新たな雇用促進につながる、地元企業も潤い雇用拡大も図れる、洋上風力発電施設周辺は良好な漁場となり、地球温暖化等による磯焼けの被害などにより低迷している漁業振興の一助となるエコツーリズム、ジオツーリズムで島の魅力をアピールするなど、コロナ禍に

より落ち込んでいる観光振興にも寄与し、環境と観光が融合した取組も実践できると考えております。

また、台風、噴火など自然災害の多い当町にとって、防災・災害対策の観点からも万が一、島の電力供給が滞る事態が発生した際にも、住民の安全や最低限の情報収集などが期待できるなど、再生可能エネルギーを活用したまちづくりは産業振興や防災対策、町財政を考えても、大島町が経済成長を図るための有効な手段と考えておりますので、引き続き東京都の技術的支援、財政的支援等、特段の御配慮を願います。

なお、先般第2回議会定例会において、ゼロカーボンシティを目指すことを表明したところであります。

次の第2のテーマであります、コロナ禍における観光産業を主とした社会経済活動の早期回復ですが、喫緊の課題として挙げられるのは、コロナ禍により打撃を受けている社会経済活動の回復です。

町の社会経済活動を回復させるためには、一人でも多くの来島客数を確保しなければなりません。

観光産業はすそ野が広く、社会経済活動を支える役割が大きい経済成長即効性の高い産業です。

コロナ感染拡大を契機として、自然が多い地域など、密集しない観光地への訪問移行が高まるとともに、団体旅行から個人旅行へとシフトするなど、三密回避につながる旅行への志向が高まっています。

また、一つの地域に長期滞在し、その土地の文化や暮らしを体験し、じっくり楽しむ滞在型観光や体験型観光も、三密を避けられる旅行スタイルとして注目を集めています。

こうした旅行者意識の変化等を踏まえ、自然志向や健康志向等、コロナの影響により加速した観光トレンドの変化を捉え、ジオツーリズムの切り口で大島の魅力を発信することが有効だと考えており、そのためには拠点施設の整備を含めたさらなるジオパーク推進が必要であります。

また、スポーツアイランド伊豆大島として、様々なスポーツイベント等を実施しており、観光振興に寄与しております。

中でも、サイクルツーリズムは効果・評価ともに高く、今後もサイクルイベントを活用するとともに、サイクリストの満足度を高めるための受入環境の整備と誘致を促進いたします。

このようなことから、コロナ禍における早期の社会経済活動の回復を図るため、財政的支援等特段の御配慮をお願いします。

次の第3のテーマであります大島町における復旧・復興事業の推進ですが、平成25年伊豆大島土砂災害復興事業ですが、平成25年度から令和3年度までに要した経費は、171億円となります。

すみませんが、調査票には本年度9億7,800万とありますが、これはちょっと間違えて申し訳ありません。本年度は1億4,500万です。本当に申し訳ありませんでした。

来年度以降、流域隣接等町道整備の継続、3,900万、全天候型多目的広場整備、3億7,000万円。

産業振興センター建設、11億4,000万円などの事業計画があり、もう時間になったみたいで、最後にまとめだけ言いたいですか。すみませんでした。

要は、町財政も御存じのとおり、財政調整基金等もかなり減少しましたので、あとこの災害復興事業、これ何とか成し遂げたいと思っておりますので、東京都の最後の一押しとして、市町村総合交付金の対応等、特段の御配慮をお願いします。

あと、ちなみに、土砂災害9年がたちまして、明後日の16日、土砂災害の追悼式を行います。

以上です、よろしく申し上げます。

○行政部長 ありがとうございます。まず、知事から御発言をお願いします。

○知事 何点か御発言がありました。

その中で私の方から、再生可能エネルギーの活用ということでお話したいと思います。

今、ロシア、ウクライナの情勢などなどで、本当にエネルギーの確保と、それからあいつの円安問題と、これまでにない厳しい状況が続いているわけです。

それに加えて、気候変動による様々な災害。そういった観点からも、電力に地産地消と、そして災害時などのレジリエンス強化というのはとても重要でございます。

そういう中で、島しょ地域の施設などを対象にして、再生可能エネルギー発電設備、そして蓄電池の導入などへの補助事業を、実施しております。

今年度から補助率を引き上げるなど、支援の充実も行っております。

そして、再生可能エネルギー導入の取組に対しては、技術的な助言なども行っておりますので、そうした取組を通じて、今お話がありました大島の洋上風力発電についても、しっかりとサポートしてまいります。

これからも、島しょ地域におけるレジリエンスの強化と、それに向けた再エネ活用の取組の支援、そしてカーボンニュートラルを目指すゼロエミッションアイランドの実現ということで、支援などの取組を推進していく、そのように考えております。

そしてあと二点ありました、副知事の方から発言させていただきます。

○副知事 副知事の黒沼でございます。よろしくお願ひいたします。

まず私の方からは、観光振興のお話がありました、大島町では豊かな自然を生かした観光産業の振興や地元経済を支える重要な産業、観光は重要な基幹産業と認識をしております。

また、2017年からファンライドですか、サイクルイベントの開催やロードレースなどの誘致に取り組んでおられると、こうした取組も、観光の活性化に寄与するものと考えております。

町長から、さらなるジオパークの推進というお話もございました。

島の観光面での魅力を国内外に発信する、これを都としても、それに必要な支援などを今後も積極的に行っていきたいと考えております。

続きましてもう一点、土木災害の復興事業、主に総合交付金の話がございましたけれども、土木災害の復興事業に対する財政支援については、大島町、平成 25 年の土木災害から、町の皆様が一丸となって復興に向けて取り組まれてきたこと、こちらは都としても承知をしております。

都は、これまでも災害復興の特別交付金、あるいはお話のございました市町村総合交付金、これを活用して、大島町における災害の復旧・復興を、後押しをさせていただいたところでございます。

今後とも、町の置かれている状況等を踏まえまして、地域の実情に即した効果的な支援に努めてまいります。

私からは以上です。

○行政部長 ありがとうございます。大島町長から、様々な御意見・御要望をいただきました。それでは最後に知事、お願いをいたします。

○知事 コロナとの闘い、本当に大変でございます。

また、今年はパンデミックならぬ、インフルエンザと一緒に起こる可能性があると言われておりますので、またここもしっかり連携して、島民の命を守っていけるようにしてまいります。

そして、国内外の発信ということを申し上げたんですけれども、今アジアの国々の島などもいろんな工夫がされていて、世界からこの観光客がやってくるというような、これからも国内もちろんですけれども、海外への発信なども、魅力をどこの点を捉えるかなど、それぞれ工夫をしていく必要があると思っております。

これまでの延長線ではなく、さらに大島の魅力を世界へと伝えていきたいと思っております。

これからも、連携してやっていくことが必要かと思えます。

今日は短い時間ですが、御苦勞様でございました。

○大島町長 ありがとうございます。また今後とも引き続きよろしく申し上げます。

○行政部長 はい、ありがとうございます。大島町長との意見交換は、以上で終了いたします。

○行政部長 こちらも画像・音声ともに届いております。それでは始めさせていただきます。

はじめに、知事から一言御挨拶申し上げます。

○知事 はい、今日は御苦勞様でございます。

利島、台風の災害など、この間は確か、Jアラートに入っていたんでしたか。

最初に島の名前が利島村って聞いて、青森と北海道と利島村っていうのはどういう関係なんだろうとも思ったんですが、いずれにしましても、これからも自然災害や様々な災害を、連携してできるだけ抑えていくということが必要だと思っております。

そして、台風などの自然災害で停電、そして通信障害が発生しないということも、島を守っていくのに極めて重要ということで、今回島内の完全無電柱化、先行的に行う島として選定されております。

島民の皆さんの安心に包まれた生活を守るため、今後も連携が必要かと思いますが、今日は限られた時間ですが、御意見・御要望を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

○行政部長 それでは村山村長、御発言ください。

○利島村長 こんにちは。本日は、このような場を設けていただき誠にありがとうございます。

利島村からは、2事業発信させていただきます。

一つ目は、今年度から東京都で実施していただいている、宝島サステナブル・アイランド創造事業について。

二つ目は、防災対策強化事業についてです。

まずは、宝島サステナブル・アイランド創造事業についてです。

利島村ではここ数年、住宅不足により移住希望者の受入が進んでいない状況でございます。

現時点で、村営住宅、職員住宅の入居率は100%の状況で、島内事業者、役場も含めて住宅不足により、島外からの人材採用ができていない状況となっております。

サステナブルな利島を実現するには、住宅不足問題は大きな課題であり、この問題を解決するために、令和5年度から令和8年度にかけて、村営・職員住宅の建設を行っていく予定でございます。

住宅戸数については現在検討中ですが、令和5年度に1棟、単身者用8世帯、令和6年度以降は1棟、単身者用2世帯、世帯用4世帯を、現在のところ予定しているところでございます。

また、当村は河川がなく、渇水問題が頻繁に発生し、近年の気候変動による水の確保についても、大きな課題となっております。

今年度、太陽光パネル及び水循環再利用システムを搭載したトレーラーハウスを導入し、利島村でオフグリッド住宅が問題なく活用できるか、実証実験を行う予定でございます。

実証実験の結果次第ではございますが、今後建設予定の住宅に太陽光発電システムや水循環再利用システムを導入し、サステナブルな利島を目指していく計画となっております。

また、当村には中学校までしかなく、高校進学の際は島を離れることとなります。

島内には塾もなく、高校進学に向けて夏期講習や冬期講習を受講する際は本土へ行く必要があり、受験生及び親の負担は大きいものとなっております。

昨今のコロナの影響もあり、ウェブ環境を使用した教育環境が急速に発展している状況で、当村でもこの環境に対応し、島にいながら本土とそん色のない教育環境を構築する必要があると考えております。

現在、令和6年度にサテライトオフィス建設を計画しているところで、本課題解決に向けて、建設予定のサテライトオフィスに子供たちがウェブ環境を利用した学習スペースを設けられないか、検討を行っているところでございます。

計画中のサテライトオフィスについては、太陽光パネルや水循環再利用システムの設置も検討しており、可能であれば、利島初のオフグリッド施設とすることで、子供をはじめとする全住民の方々が脱炭素化・HTTを身近に感じ、オフグリッドについて御理解いただけるよう、取り組んでいきたいと考えているところでございます。

東京都におかれましては、宝島サステナブル・アイランド創造事業に関わるこれらの事業に対して、アドバイス、人的及び財政的支援をお願いするところでございます。

続いて、二つ目の防災対策強化事業についてです。

当村の避難所は、発災時の停電や断水に対して脆弱な状況であり、災害時の避難所として主に使用している施設に太陽光パネルを設置することで、停電時の電力の確保を、水循環再利用システムを設置することで、断水時の水の確保を図る必要があると考えております。

近年の気候変動によって局地的豪雨が増加しており、当村でも例外ではない状況で、幸い今まで、当村で土砂災害による大きな被害は発生しておりませんが、今後、局地的豪雨による土砂災害の発生は否めない状況と考えてございます。

当村集落内には、土砂災害特別警戒区域が約30箇所存在し、今後、土砂災害特別警戒区域にかかる擁壁が整備されていない住宅を優先的に、擁壁の整備を検討しているところでございます。

東京都におかれましては、本事業に対するアドバイス、人的及び財政的支援をお願いする次第でございます。以上になります。

○行政部長 ありがとうございます。まず知事から、御発言をお願いします。

○知事 3点の御発言があったと思います。

まず、東京の島々、本当に豊かな自然環境で、後ろに椿が咲き誇っていますけれども、特色ある特産品につながりますし、また独自の伝統文化などを有しておられる。

一方で地理的な制約、そして今、住宅が足りないというお話で、一昨年が310人から322人に増えているという人口数を拝見していたところでございます。

いろいろな課題がございますが、持続可能な地域社会を創るということから、各町村が民間企業などと協同して取り込まれる地域産業や経済の活性化に資する事業の後押し、先ほどお話ありましたような「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」の創設をしたところでございます。

住宅の確保や子供の教育環境の整備ということで、島の自然環境を生かしながらクリーンエネルギーを活用したり、将来を担う子供たちへの支援の充実と、正にサステナブルな利島の実現に寄与する、そのような取組は重要でございます。

都といたしましても、そういう意味でも、今後申請を目指す町・村の事業構想の策定に係ります地域課題の選び出しや、具体化に向けて、丁寧に意見交換を行ってまいります。

また、民間の事業アドバイザーによる助言など行うことについても、支援をしてまいります。

島の、地域の持続的な発展に向けて支援をいたしたいと、そのように考えております。

今度副知事の方から、続けて発言いたします。

○副知事 副知事の黒沼でございます。よろしくお願ひいたします。

私からは、災害関係のお話の2点について、お答えをさせていただきます。

まず、停電時の電力確保というお話がございました。

島しょ地域の町村の施設を対象、いわゆる公共の施設を対象として、再エネの発電設備、蓄電池の導入については、補助事業を実施しております。今年度からは補助率をかさ上げしております。ぜひ御活用いただきたいと思っております。

それからその中で、こういった自立的なエネルギーで回す施設を造るのは、湯水が頻繁に起きているというようなお話をいただきました。

実は私も、水道局在職中に、湯水対応で例の海水淡水化装置がトラブルを起こして、東京都として支援をしたという経験がございます。

非常に水問題で苦労をされてるというのは認識しております。

非常に有効な、そういう中では再エネを活用した基幹施設の整備というのは、有効な取組だと思っております。

引き続き東京都としては技術的、あるいは財政面でも支援に取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

続きまして、土砂災害対策の、特に擁壁のお話がございました。

国においては、既にこうした土砂災害特別警戒区域における住民や建物の安全を確保することを目的に、現在、既存の建物の改修等に関する補助の仕組みは整備されております。

まず都としては、当該制度について、必要な情報提供・連絡調整を行ってまいります。

また、こうした国庫補助要件を満たさない小規模な擁壁の整備等の斜面对策につきましても、国の緊急自然災害防止対策事業債の活用に向けて、都は事業計画の策定への助言を行っているところでございます。

何よりも人命の保護を最優先に、土砂災害対策を進めていただけるよう、都としても応

援をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○行政部長 ありがとうございます。村長から様々な御要望をいただきました。それでは最後に、知事からお願いします。

○知事 コロナとの戦いも大変でございました。

それに加えて、気候危機、エネルギー危機、自然災害などなど、多くの危機に直面しておりますが、一方で先ほどもお話ありました、教育環境もオンライン化であるとか、また働き方もテレワークなど、デジタル化の進展ということも、村の生活もそれによって変化をもたらしていると思います。

それらの環境を整えていくことによって、島の魅力を逆に生かせる、そういうチャンスにつながればというふうに思っております。

今日短い時間でございましたけれども、意見交換させていただきました。これからも連携をして、頑張ってまいりましょう。

今日は御苦勞様でございました。

○利島村長 ありがとうございます。

○行政部長 利島村長との意見交換は、以上で終了いたします。ありがとうございました。

○行政部長 映像と音声届いております。それでは始めさせていただきます。始めに、知事から一言御挨拶をお願いします。

○知事 こんにちは。お元気そうに映っております。村の皆さんもお元気ですか。お元気。では、私の方からいきます。

新島村でございますけれども、民間事業者と連携した取組の話を伺うことになってるんですかね。

白い砂浜の新島と、緑豊かな式根島ということで、ワーケーションに絶好な場所だと思います。

実際それについて普及に取り組んでおられる青沼村長、今日は時間短いですけれども、御意見・御要望を伺えればと思います。よろしくお願いします。

○行政部長 それでは青沼村長、御発言ください。

○新島村長 こんにちは。新島村長の青沼でございます。

本日は小池知事におかれましては、お忙しいところ意見交換の機会を設けていただき、厚く御礼申し上げます。

それでは一つ目のテーマとして、地域循環共生圏の実現に向けた対策の推進についてですが、当村では、環境対策やエネルギー対策は欠かすことのできない課題としています。

東京都が提唱、推進しているゼロエミッションの取組について、村としてどのような対応をすれば成果が期待できるか、検討を進めているところでございます。

村では、今後の事業に先駆け、2015年から、国の依頼を受けたNEDOが新島村をフィールド実証地として研究開発が行われてきた電力系出力変動対応技術研究開発事業がございました。

開始から5年の研究開発で得られた技術と知見は、新島モデルとして内外に知られているところですが、この新島村で行われた研究・実証が世界の電力問題、地球温暖化防止対策などに役立つことに、大きな期待を寄せており、村としては可能な限り、今後も協力していくつもりです。

また、ここで培ったつながりを今後の活動、事業に生かすべく、今年度、東京電力パワーグリッド株式会社と当村は、地域循環共生圏の実現に向け、防災、減災、脱炭素なまちづくり並びに持続可能な社会構築の推進に関し連携、協定を締結いたしました。

この協定は、防災、環境、エネルギーの分野において相互に連携、協同し、共に考え、共に創る共創の推進を通じて、再生可能エネルギー等の利活用や脱炭素化に向けたエネルギーへの転換等の施策を、効果的かつ継続的に推進することで、レジリエンスの強化及び脱炭素社会・循環型社会の実現に資することを目的としており、今後の防災環境エネルギーなどの分野に係る事業検討を進めていきます。

現在は、既存の太陽光発電施設で得られた再生可能エネルギーを利用し、津波災害等で発電施設が被災し電力が供給できないときに、既存の配電ラインの切替えを行い、村指定の避難施設周辺に蓄電池設備を設置し、継続的な電力供給ができないか、東京電力パワーグリッドと詳細な検討を進めているところでございます。

様々な事業展開する際には、東京都の関係部局とも連携し進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に二つ目のテーマとして、「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」についてです。

現在、新島村を取り巻く現状として人口減少、少子高齢化が加速度的に進む中で、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会変容も加わり、様々な課題が浮き彫りとなっております。

地域内における担い手等人材の一人二役、三役といったマルチタスク化が進行しており、商工、産業等における働き手、地域活動の担い手の不足が深刻化しております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う来島者激減、観光産業の低迷が発生し、関係人口創出、新たな観光形態の確立が喫緊の重要なタスクになっており、加速度的に深刻化する人材不足を主要因として、地域内資源、新島ガラス、水産、農作物等のリブランディング・有効活用施策が後手に回っている状況でございます。

収支は上がらず、維持コストの負荷が増加し、他の課題に対する施策とともに、早急な有効活用に向けた取組が必要な状況であります。

そのため、今回御承認いただいた「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」に係る事業では、こういった様々な課題に対し、村の多様な主体、住民、事業者、各種団体等と行政が連携しながら、地域資源を最大限効果的に活用し、地域の持続的な発展を目指し活動する「新島村型の地域経営」を確立するとともに、賑わいと活力ある、安心して豊かに暮らせる、自立した持続可能な地域社会の実現を目指したいと考えて、施策の展開しておりますので、引き続き東京都の支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○行政部長 はい、ありがとうございました。まず、知事から御発言をお願いします。

○知事 青沼村長、二点お話があったかと思います。

私の方から、自立した持続可能な地域社会の実現ということについて、お話したいと思います。

私は新島村のコーガガラスで作られた作品を、特別応接室に飾っているんです。

この意味とか、お客様こられたときの時間があるときなどは説明もさせていただいたり、ちゃんとプレートを置いたりして、説明文が付いてるんですが、あれはもう本当に素晴らしい特産品だと思います。

この間、コロナでなかなか観光というところにはつながらなかったですけども、ぜひ東京の宝物の一つだと、新島ガラスはそれに匹敵すると思っておりますので、こうした地域の資源を有効活用すると、そして持続可能な地域社会の創出につなげて、それが村の自立につながるということ、重要だというふうに認識しております。

今年度、お話ありましたように、「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」ということで作りました。

それぞれ民間企業などと連携をされて、協同して取り組んでおられる地域産業や経済の活性化に資する事業を、後押しをするということといたしております。

新島村で、先ほど申し上げた新島ガラスを用いたモニュメントの設置なども推進していると聞いておりますが、楽しみにしております。

最近は何とか映えというのが、インスタ映えとかいろいろありますし、コーガガラスはそれを可能にするというふうに思います。

どうぞ新島村型の地域経営の確立に向けて、様々な方々と行政がうまく連携されて、地域資源にさらに磨きをかけて、世界から人々を呼び込むような、そんな村を目指していただきたいと思っております。

都としても、実現に向けて支援してまいります。

私から以上です。この後、副知事の方からお伝えします。

○副知事 副知事の黒沼です、よろしくお願ひいたします。

私からは、再生可能エネルギーを活用したまちづくりのお話につきまして、発言をさせていただきます。

村長から、東京電力のパワーグリッドとの協定という、民間事業者と連携をした取組について、今進めてらっしゃるというお話がございました。

東京都でも、小池知事を筆頭にHTTという取組を進めておりまして、そこでは東京電力とのパイプをより太くするというので、包括協定を結んで今進めているところでございます。

島の生活を支える電力の安定的な確保、脱炭素社会の実現、それぞれの島の特性を生かした再エネの活用を進めることは、極めて重要でございます。

都は、こうした島しょ地域の再エネの導入に向けた独自の取組に対しまして、まずは技術的な面からサポートを行います。

そのほか、太陽光などの発電設備、蓄電設備の設置に関しましては、今年度から補助制度を拡充しまして後押しを強化しております。

今後とも、カーボンニュートラルを目指すゼロエミッションアイランドの実現に向けた支援については、取組を推進してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

○行政部長 ありがとうございました。村長から、様々な御要望をいただきました。

それでは最後に、知事からお願いをいたします。

○知事 新島村に伺ったのは3年ぐらい前ですかね、停電とか台風の影響だったということをお記憶しておりますが、もう最近には本当に台風もこれまでにない激甚化で、やはりそれに備えておく必要があるということです。

災害に負けない強靱な都市づくり、村づくりということ、ともに進めていきたいと思っております。

これからもサステナブル・リカバリー、コロナの前に戻るといよりは、もう持続可能な社会づくり、島づくりということで、サステナブル・リカバリーという言葉使っておりますので、新島村におかれましても、ともにその方向に向かって進めるよう、これからも連携してまいりましょう。よろしくお願ひいたします。またきてください。

- 新島村長 ありがとうございました。よろしく願いいたします。
- 行政部長 新島村長との意見交換は、以上で終了いたします。

○行政部長 こちらも、音声・映像映っております。それでは、始めさせていただきます。

はじめに、知事から一言御挨拶申し上げます。

○知事 この度の村長選挙で再選2期目ということで、おめでとうございます。

村長、今日よろしく申し上げます。ただ時間も短いところで恐縮ですが、神津島というと遊歩道、そして何よりも星空ですね。

そして農作物なども、明日葉、レザーファン、キンメダイとたくさんの魅力を抱えておられると。

ぜひこれからも連携が必要かと思いますが、時間短いところではございますけれども、御意見・御要望を伺いたいと思います。

どうぞよろしく申し上げます。

○行政部長 それでは前田村長、御発言ください。

○神津島村長 本日は、意見交換の時間をいただきまして誠にありがとうございます。

今月、10月1日から、また2期目の村政運営を担わせていただくことになりました。東京都の宝島を目指し、島の活性化に取り組んでまいります。

小池都知事含め幹部の皆様、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

神津島からは、三点発言させていただきます。

まず第一点目に、サステナブル・リカバリーの推進、「星空保護区」を軸としたエコツーリズム推進全体構想の実現のに向けた技術支援と財政支援について。

東京都宝島事業により、東京都初となる「星空保護区」の認定を受けたことを機に、ウィズコロナとアフターコロナにおける持続可能な地域の創生。

サステナブル・リカバリーとして、神津島交通リズム全体構想の認定を目指し、「星空保護区」を軸として、自然・文化・歴史など、地域の宝を生かした活性化を図っていくこととしております。

そのような中、星空公園として各種施設整備やガイド養成、プロモーションやコンテンツ開発など展開していくに当たりまして、サステナブル・アイランド創造事業をはじめ、ハード面及びソフト面から、特段の配慮をお願いするところでございます。

二点目といたしまして、防災対策の推進、南海トラフ地震による巨大地震など、自然災害に耐えうる防災拠点の整備でございます。

南海トラフ巨大地震は、今後40年以内に90%の確率で発生すると言われております。

その巨大地震による津波は、到達時間で約17分、最大津波高さで約27メートルになるとの想定もございまして。

一方で、防災無線や防災本部は、海拔26メートルに位置する役場本庁舎にあり、巨大地震の襲来で防災施設の崩壊とともに、防災機能が完全に失われることも想定されます。

そのような状況下におきまして、実際の津波襲来から人的被害を最小限に抑えるためには、日頃の防災訓練や防災意識の啓蒙が重要であると認識しております。

また、住民に対し防災情報の伝達手段を確実に確保するために、防災本部の予備機能と

して、安全な場所へ新たな防災無線の施設整備が求められていることから、実現に向けて財政支援に特段の配慮をお願いいたします。

三点目でございます。総合交付金による継続的な財政支援の強化、地域の実用に応じた市町村総合交付金の拡充でございます。

市町村総合交付金は、財政力の乏しい町村にとって重要な財源であり、東京都におかれましては、年々増額配分をいただいているところでございます。

しかし、近年の少子高齢化に対する行政サービスの拡大や厳しい自然環境下にある公共施設の維持費は年々増加傾向にあります。

さらに、近年の世界情勢による資材の高騰も財政運営に大きな打撃となっており、住民ニーズに応えられる十分なサービスが提供できない現状にあります。

このような状況下におきまして、持続可能な島の発展と安定的な財政運営のために、市町村総合交付金の財政補完機能を強化するとともに、まちづくり振興対策地域特選事業枠のメニュー拡大など、その充実について配慮をお願いいたします。

以上、三点でございます。

○行政部長 ありがとうございます。まず知事から、御発言をお願いします。

○知事 私の方から、「星空保護区」についてお伝えしたいと思います。

星空保護区、神津島の美しい星空というのは、世界中の方々に誇れる東京の宝物の一つでございます。

都としても、東京宝島のブランド化の成功事例の一つとして、積極的に情報発信をする、国内外の多くの方々にその魅力を知っていただくための取組を行ってまいります。

コロナがございましたけれども、旅行者の回復に向けて観光施設の整備、そしてお客さんをいかにして誘致するかといった情報発信などの取組を支援してまいります。

それから、それぞれの町村が民間企業などと協同して取り組む地域産業経済の活性化に資する事業の応援ということで、「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」を創設したところでございます。

お話いただいた、自然を含む地域の宝を生かして活性化が図られるというように、都としても、これからも申請を目指す町村の事業構想の策定に係る地域課題の選び出しや、また具体化に向けて、意見交換を行ってまいります。

また、民間の事業アドバイザーによる助言などを行うなどの支援もしてまいりますので、地域の持続的な発展に向けての支援、続けてまいります。

私から以上でございます。この後、黒沼副知事からお伝えします。

○副知事 それでは私の方からは、防災対策と財政支援についてお話がございましたので、発言をさせていただきます。

防災対策、特に島では津波、村長からもそういうお話がございました。

都といたしましても、これまでも都民参加型の総合防災訓練、これを都と島と一緒にやってきているところでございます。

図上訓練も継続的に行っているところでございます。

今後、地域の防災力の向上にともに取り組みたいと考えてございます。

また、村長から、今の村の庁舎の中に防災行政無線があって、そこがちょっと危ないというところがありました。

代替の防災無線の整備をという話がありました。こうした、村が実施する各種施策の一般財源の補完については、総務局としても取り組んでいるところでございます。

引き続き、地域の実情を踏まえながら、適切に支援を行ってまいります。

また、関連で総合交付金でございますが、御案内のとおり、市町村総合交付金は市町村にとって、重要な一般財源の補完制度でございます。

令和4年度では、予算額は過去最高額となる総額588億円まで増額をして、充実に努めてきております。

お話がございました地域の特選事業枠、こちらにつきましても、市町村が行う独自の創意工夫をこらした地域課題の解決に向けた事業、地域の固有の資源などを活用して地域活性化を図る取組を後押しさせていただいております。

今後とも、村の財政状況や地域の持続的な発展に向けた取組、こちらをしっかりと支援しながら、適切にともに取り組みたいと考えております。

以上でございます。

○行政部長 ありがとうございます。村長から、様々な御要望をいただきました。それでは最後に、知事からお願いをいたします。

○知事 御苦労様です。コロナですけれども、今日も若干この全体、都としての陽性者の数など、この後発表かと思えますけれども、またじわっと増えつつある感じですね。

一方で、インフルエンザとのツインデミックも心配されております。

これまでも、新型コロナに対しては医療提供体制確保、また連携したワクチン接種の促進など図ってまいりました。

これから、コロナとの共存に向けた取組を進めるということで、社会経済活動との両立につなげていくということも重要になってまいります。

今日は短い時間ではございましたけれども、幾つか御発言、また御要望等伺わせていただきました。

これからも、ともに頑張ってもらいましょう。今日は御苦労様でございました。

○神津島村長 どうもありがとうございました。

○行政部長 神津島村長との意見交換は以上で終了いたします。

また、本日の意見交換は以上で終了となります。ありがとうございました。